

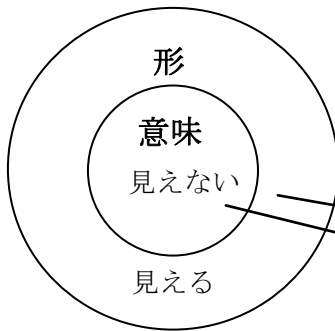
関東 JHA 「きよめと世代を超えた一致（みんな一緒に悩んでる）」

■きよめとは何？ ー性質が変化すること、(1)ある時点をポイントに、(2)プロセスの中で

性質って何？ ー外側に見えないもの 「内的な罪」とは心の中にある憎しみとか嫉妬とかではない
憎しみなどは少なくとも認識できる 聖めは、見ることができない性質に焦点を当てる恵み

■宣教学（文化人類学）からのヒント

1 形態と意味モデル ～ものごとには「形」（見える）と「意味」（見えない）がある



信仰はどちらの問題？ →ほぼ「意味」（見えない部分）の領域の問題
きよめはどちらの問題？ →ほぼ「意味」（見えない部分）の領域の問題

そうすると…… きよめが世代間で違うとはどういうこと!?
違うとを感じるものが見える部分のものならそれはきよめの問題ではない?

見える部分? →文化・考え方の違いの可能性?

見えない部分? →神さまの領域

→見えない部分は互いに全部はわからないという謙虚さ

見える部分はいろいろでよいという多様性・相互補完性 →教会らしさ

2 良心の成長モデル ～人間の内面、考え方や特に罪のとらえ方について、文化差・個人差がある

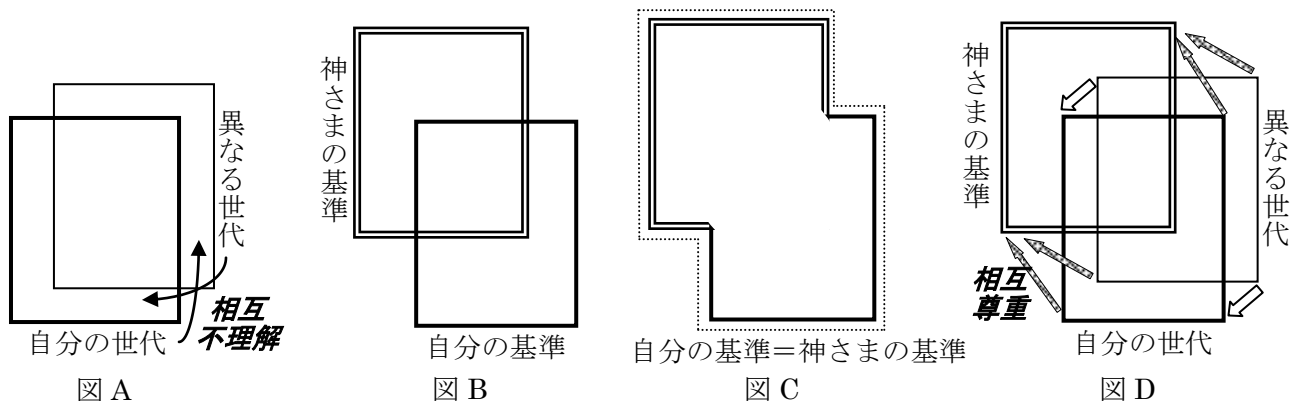


図 A 自分の世代の基準と異なる世代の基準の間には「ずれ」がある →相互不理解

図 B 実は、自分の基準と神さまの基準の間には、かなりの「ずれ」がある

図 C 自分と神さまの間にずれがあることはなかなか気づかない。点線であるかのように… →かなり危険

図 D 図 B に、図 A の異なる世代の基準を重ね合わせたもの。もし、自分で図 C のように考えていると…
矢印 (↗) のように、自分と異なる世代を自分のほうに引っ張りたくなる しかし…
矢印 (↖) のように、神さまの基準に向かって互いに成長 →主のように →相互尊重

■思いめぐらし ～若い方々に向き合いながら

1 キリスト論的な視座からのヒント ～十字架の前に横一列の恵み

きよめに成長したら、自分より年限の浅い方、若い方を指導できるという世界ではない
なぜ? →きよめは「ただ信仰によって」いただける恵み 修行的に極めるものではない
すべての人は「十字架の前に横一列」、むしろ若い者から学ぶこともある →相互尊重

2 人間性からのヒント ～世代間の違いを感じることに背後にある隠れたシナリオ

(1) 次の世代を指導しなければという気負い ～自分より若い世代が、自分のイメージ通りではない?

(2) 先輩から学ばなければという焦り ～自分は足りないという不全感

→抑うつ的、内省的、悲観的信仰体質 →異質なものを受け入れにくくする

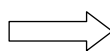
3 恵みによって生かされる ～見える部分は譲る、見えない部分は恵みのゆるさによって暖かく真実に

素の自分に対する正直さ

健全な自己肯定感

神さまの領域に対する厳粛な思い

恵みによる徹底した楽観性



主にある相互尊重の可能性がある?

～多様性と相互補完性による一致